

奈良国立文化財研究所概要



1986

目 次

沿革付年表.....	2
組織.....	3
機構.....	3
定員.....	3
役職職員.....	4
予算.....	4
歳出予算.....	4
科学研究費補助金.....	4
施設.....	5
土地及び建物.....	5
事業.....	7
建造物研究室.....	7
歴史研究室.....	7
平城宮跡発掘調査部.....	8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部.....	9
飛鳥資料館.....	10
埋蔵文化財センター.....	11
普及活動.....	12
公開講演会.....	12
現地説明会.....	12
刊行物.....	12
蔵書及び資料.....	14

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

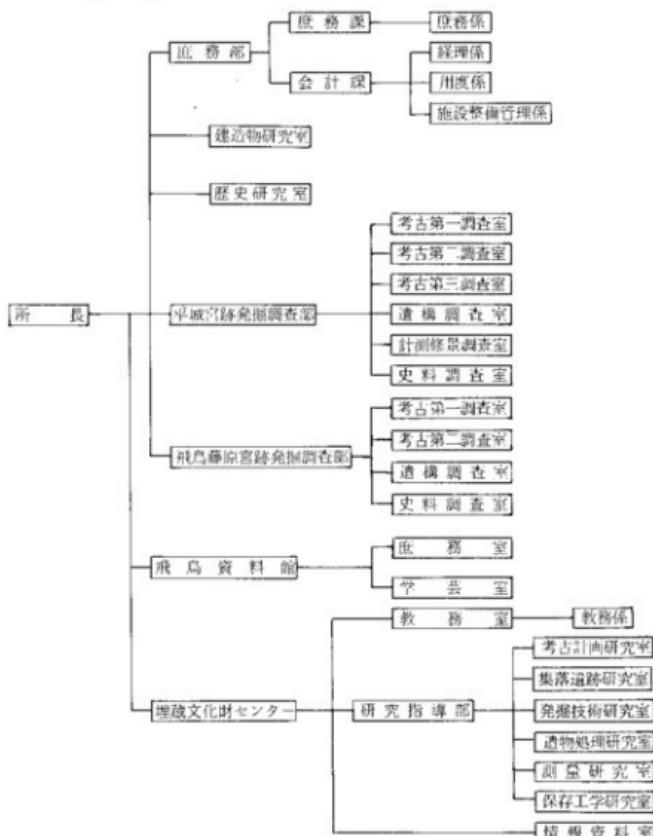
年表

昭和26.10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良国立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、造構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館。
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52.10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、造構調査室、史料調査室と改める。
53.10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
55. 4. 26	府舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58.10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組 織

昭和61年4月1日現在

機 構



定 員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
人員	1	22	4	64	91

役職職員

所長	鈴木嘉吉						之一
庶務課	部長伊藤省三	庶務課	長長	松赤	本羽	保御	
建造物研究室	室	長	宮本	長二郎			
歴史研究室	室	長	鬼頭	清	明		
平城宮跡 発掘調査部	部長町田章	考古古 第一二三 構造 測量 史料	古調査 第二第三 調査 査査 室室	室長 長長 長長 長長	金田毛上田綾	子辺光野中村	裕征俊邦哲 之夫彦一雄宏
飛鳥藤原宮跡 発掘調査部	部長岡田英男	考古古 第二 通史	調査 第二 査査 室室	室長 長長 長長	黒木山加賀	崎下木藤田	直史尚優 正忠
飛鳥資料館	館事務取扱 長鈴木嘉吉	歴史 學	務芸	室室	鐵猪	健兼	勝
埋蔵文化財 センター	センター長田中琢		教務資料室	室長	東岩谷本	久次夫郎	
研究指導部	部長佐原真	考古集 遺物量 保存工	古遺物 技術研究 工学研究室	室長 長長 長長 研究室	松上西沢木安	沢薗村田全原	亞善生 正敬昭慈示

予算

歳出予算

(単位 千円)

区分	59年度	60年度	61年度(当初)
人件費	488,670	504,218	523,673
運営費	657,991	663,381	698,696
施設費	310,544	285,742	279,400
臨時の経費(備取金)	588,000	14,305	0
計	2,045,205	1,467,646	1,501,769

科学研究費補助金

() 書は件数(単位 千円)

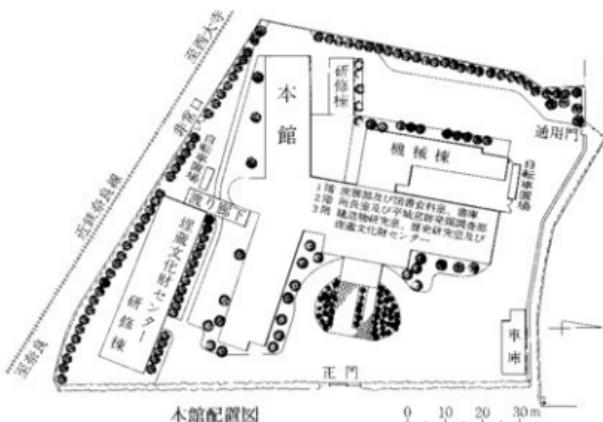
区分	58年度	59年度	60年度
特定研究(1)		(1) 3,000	(1) 3,200
総合研究(A)			
一般研究(A)		(1) 8,300	(2) 18,500
“(B)”(5)	12,000	(5) 10,100	(3) 3,900
“(C)”(3)	2,300	(2) 2,300	(2) 3,400
奨励研究(A)	(4) 3,200	(3) 2,300	(8) 6,100
試験研究(1)(1)	6,400		(1) 5,050
“(2)”			
特別推進研究(2)			(1) 64,000
研究成果刊行費	(1) 3,380	(1) 6,870	(1) 6,870
海外学術調査			(1) 5,100
計	06	27,280	(3) 32,870
			(3) 116,120

施 設

昭和61年4月1日現在

土地及び建物

名 称	土地面積	建 物 面 積		備 考
		建面積	延面積	
本 館	8,860 塚	2,792 塚	6,793 塚	
平 城 宮 跡	1,067,010	8,087	10,908	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、覆屋等
藤 原 宮 跡	293,640	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	6,721	ブレハブ 3,124	ブレハブ 3,240	民有地借上
新 庁 舎 等用 地	20,382	0	0	
飛 鳥 資 料 館	17,092	1,465	2,682	
旧 米 谷 家 住 宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
古 飛 鳥 資 料 館 都 山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地 231 塚 大藏省所管を含む
合 計	1,415,657	16,028	24,250	

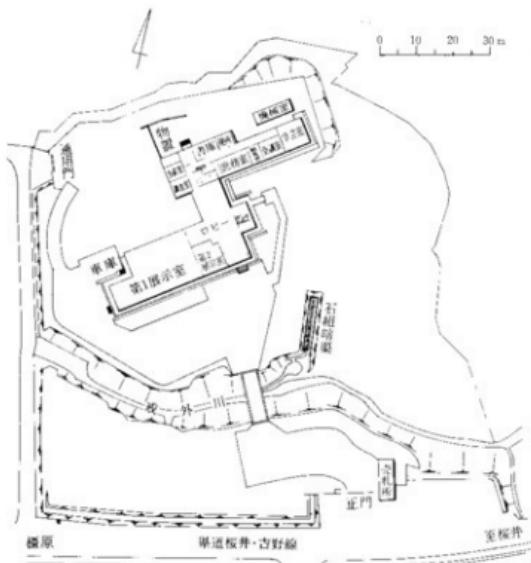




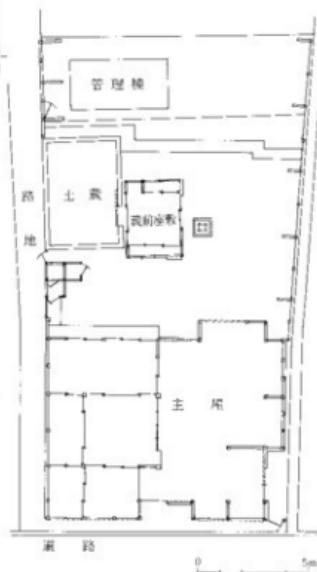
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡覆屋配置図



飛鳥資料館配達図



旧米谷家住宅配置図

事 業

建造物研究室

社寺建築・庭園・民家及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

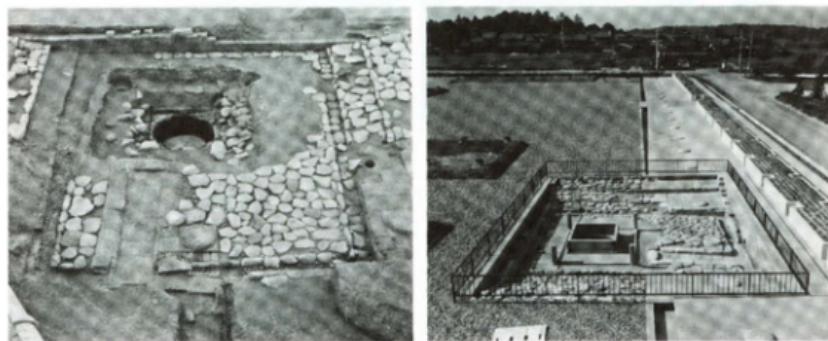
平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡 大極殿周辺



山田寺東回廊建物（北から）

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

（単位 人）

区分		年 度			
		昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	
有料観覧	普通観覧	一般	46,244	49,503	
		高・大学生	15,483	14,697	
		小・中学生	16,180	16,805	
	団体観覧	一般	29,863	24,506	
		高・大学生	30,111	27,569	
		小・中学生	66,463	67,915	
計			204,344	200,995	
無料観覧			10,595	10,072	
合 計			214,939	211,067	
			236,985		

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和60年度までの受講者累計は2,155名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程	専門研修	環境考古課程
専門研修	写真測量課程	"	埋蔵文化財情報課程
"	縄文時代遺跡調査課程	特別研修	石造物調査課程
"	遺跡保存整備課程	"	土層転写課程
"	鉄器保存課程	"	埋蔵文化財基礎課程
"	予備調査課程		



研修風景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の
情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量圖化機 ステレオメトログラフE型を
使用して実測図を作成する。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第55回 (59.5.19)	中世庶民の食器類 年輪から年代を読む	第57回 (60.5.18)	象嵌造物の保存科学的研究 織文化の起源
第56回 (59.11.17)	古代仏教のイメージ・金堂の原型をもとめて 日本古代の冠帽	第58回 (60.11.9)	番付墨書きからみた室町・桃山建築 古代の武具一飛鳥寺塔心礎の抹甲

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説 明 会 日	発 挖 調 査 場 所	説 明 会 日	発 挖 調 査 場 所
59. 5.26	平城宮跡第155次	60. 6.29	平城宮跡第166次
6.23	藤原宮跡第41次	7. 6	平城宮跡第165次
8.25	平城宮跡第157次	9.26~27	平城宮跡第167次現地見学会
10. 6	平城京左京八条一坊三・六坪	10.19	藤原宮跡第46次
10.13	山田寺跡(第6次)東向廊	11. 2	石神遺跡
12. 1	石神遺跡第4次	11.23	平城宮跡第169次
12. 8	平城宮跡第161次	12.14	平城京八条一坊・十四坪
60. 2.16	藤原宮跡第44次	61. 3.15	平城宮跡第171次
3. 9	平城宮跡第163次		

(3) 刊行物

イ. 学報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師連慶の研究	1975	第24冊 高山一町並調査報告一
	第2冊 修学院院離宮の復原的研究		第25冊 平城京左京三条二坊
1955	第3冊 文化史論叢		第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ
1956	第4冊 奈良時代壁面の研究		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告		第28冊 研究論集Ⅲ
1958	第6冊 中世廢闕文化史		第29冊 木曾奈良井 町並調査報告一
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査報告一
1959	第8冊 文化史論叢Ⅱ	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第32冊 研究論集Ⅳ
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告		第33冊 イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
1961	第11冊 院家建築の研究		
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀仏快慶		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
	第13冊 織成造系庭園の立地的考察	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
	第14冊 唐招提寺藏「レース」と「金龜舍利塔」に関する研究		第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ	1980	第38冊 研究論集Ⅵ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ	1981	第39冊 平城宮発掘調査報告Ⅹ
	第18冊 小尉遠州の作事		第40冊 平城宮発掘調査報告Ⅺ
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	1984	第41冊 研究論集Ⅶ
1969	第20冊 名物製の成立		第42冊 平城宮発掘調査報告Ⅻ
1971	第21冊 研究論集 I		第43冊 日本における近世民家(農家)の系統的發展
1973	第22冊 研究論集 II	1985	第44冊 平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告書
1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ		

口、史料

年度	名 称	年度	名 称
1954 第1冊	南無阿弥陀仏作等集(複製)	1979 第15冊	東大寺文書目録第一卷
1955 第2冊	西大寺釋尊伝集成	1979 第16冊	日本美術院彫刻等修復記録VI
1963 第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	1979 第17冊	平城宮木簡二 図版・解説
1964 第4冊	俊逸坊重源史料集成	1979 第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説
1966 第5冊	平城宮木簡一 図版	1979 第19冊	東大寺文書目録第二卷
1967 第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	1980 第20冊	日本美術院彫刻等修復記録VII
1969 第7冊	平城宮木簡一 解説(別冊)	1980 第21冊	東大寺文書目録第三卷
1970 第7冊	唐招提寺史料一	1981 第22冊	七大寺巡礼私記
1974 第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	1981 第23冊	東大寺文書目録第四卷
第9冊	日本美術院彫刻等修復記録I	1982 第24冊	東大寺文書目録第五卷
1975 第10冊	日本美術院彫刻等修復記録II	1983 第25冊	平城宮出土墨書き土器集成1
1976 第11冊	日本美術院彫刻等修復記録III	1983 第26冊	東大寺文書目録第六卷
1977 第12冊	日本美術院彫刻等修復記録IV	1984 第27冊	木器集成図録—近畿古代篇一
1978 第13冊	日本美術院彫刻等修復記録V	1985 第28冊	平城宮木簡四
1978 第14冊	日本美術院彫刻等修復記録V	1985 第29冊	興福寺藏典籍文書目録第一卷

八、飛鳥資料館図録

年度	名 称	年度	名 称
1976 第1回	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973 第1冊	瓦編1 解説
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	1974 第2冊	瓦編2 解説
1977 第3冊	日本古代の墓誌	1975 第3冊	瓦編3
1978 第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇	1976 第4冊	瓦編4
第5冊	古代の誕生仏	1977 第5冊	瓦編5
1979 第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—	1978 第6冊	瓦編6
1980 第7冊	日本古代の駆尾	1979 第7冊	瓦編7
1981 第8冊	山田寺庭	1980 第8冊	瓦編8
1982 第9冊	高松塚拾年	1983 第9冊	瓦編9
1983 第10冊	養来人の寺 檜隈寺と坂田寺一		
第11冊	飛鳥の水跡計		
第12冊	小建築の世界 墓輪から瓦塔まで		
1984 第13冊	藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—		
1985 第14冊	日本と韓国との並像		
第15冊	飛鳥寺		

本、地図 (大梯尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化)

区 分	図化面数	図 化 地 域
平 城 京 地 域	73	押熊、桑原、中山、外山、鹿列、洪谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畠、歌姫、コナベ、ウツバ、黒髪山、佐保山、船着寺、野神、西大寺、平城宮(-北)、法善寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(-北)、宝来、曾原、尼ヶ辻、北新、田村、銀ノ町、三条、興福寺、春日野、春日神社(-北)、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、人安寺(-北)、京終、元興寺、紀寺、新药师寺、大池、義勝寺、西ノ京、杏、八条、神殿、肘塚、北吉市、鹿野園(-北)、大職城、西市、觀音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、豆坂、南郡山、郡山、野垣内、下三橋、十三橋、北ノ庄、今市、帶解
下 ツ 道 地 域	47	人師、若槻、美濃丘、戸戸野、池田、藏之庄、番条、中城、免志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二瀧堂、西菖蒲、桂峰、庵治、溝懸、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦之庄、南阪手、多、笠鍵、新井、西垣内、上品寺、新賀、額田郡、額田郡北方、穴闌、長楽、保田、府院、沢、大野、小柳、大場、乙木(-北)、佐保庄、竹之内
飛 鳥 藤 原 地 域	45	木原、耳成山、常磐、西之宮、今井(-北)、小房、鶴公、高殿北部、膳大、吉備、木殿、飛鶴、高殿、香久山、池之内、池尻、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和田、豊浦、飛鳥寺、八鈞、越、野口、立部、橘寺、岡寺(-北)、真弓、檢前、上平田、祝戸、坂田、観覚寺、栗原、大根田、東常門
計	165	

その他、編集図(縮尺1:2,000)

平城宮跡、藤原宮跡、藤原宮(-北)、五条野、飛鳥、若槻莊、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年報

1958~1985毎年1冊 計28冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975~1985毎年数冊 計54冊

蔵書及び資料**蔵書**

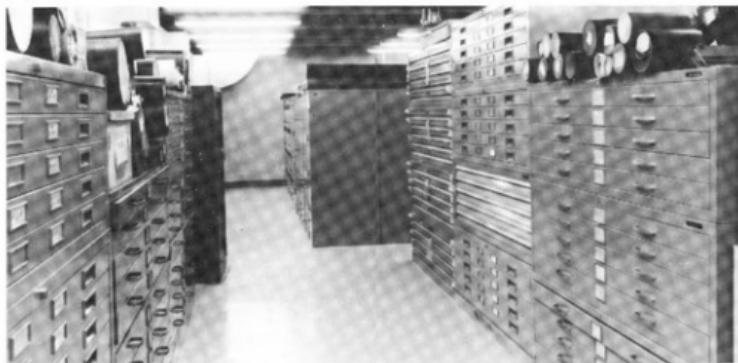
90,092冊(昭和61年3月30日現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
60年度	和漢書 洋書	1,817 145	6,739 142	8,556 287
累計	和漢書 洋書	40,791 5,036	43,393 872	84,184 5,908

資料

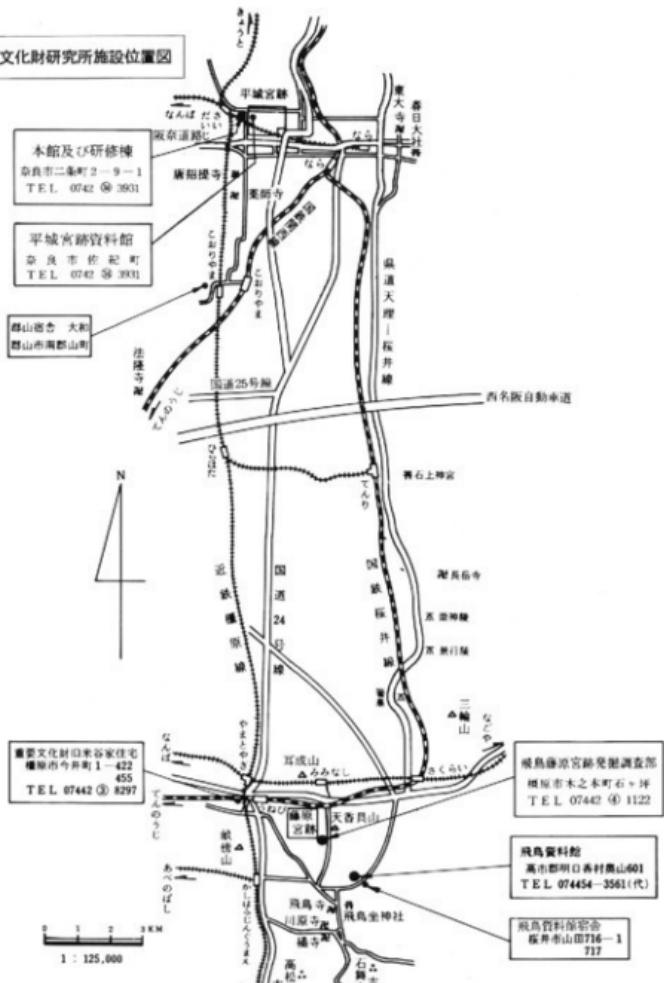
314,270点(昭和61年3月31日現在)

区分	キヤビネ	スライド	ライカ	プロニー	ミニコピー	その他	計
60年度	4,084	4,568	3,205	4,079	195	115	16,246
累計	102,676	96,189	63,270	42,136	2,144	7,855	314,270



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガ
などを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大宮人寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	靈龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇壇浦宮に即位	718	養老 2	藥師寺・元興寺を移す
601	9	聖德太子退場宮を造る	730	天平 2	藥師寺東塔建立
603	11	小聖田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大梅殿等を遷ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 4 勝 1	東大寺大仏開眼供養
639	11	白濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小聖田宮に遷る	759	天平 3 宝字	唐招提寺を造る。平城宮東朝榮殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豐崎宮に遷る	765	大平 神護	西大寺を造る
653	白雉 4	中大兄皇子、聖極等と飛鳥河辺行宮に遷る	767	1	西隆寺を造る。東院主殿完成
655	齐明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護 景盛	
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
667	天智 6	近江天津宮に遷る	794	13	平安京に遷る
672	天武 1	飛鳥淨御原宮に遷る	794		
680	9	藥師寺を造り始める。橘寺厄房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する	824	天長 1	平城上皇薨去
694	8	藤原宮に遷る			
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和61年5月30日
発行 奈良国立文化財研究所



Z